

ジェノサイド (Genocide) ギリシャ語で民族・種族を意味する「GENOS」とラテン語の殺害「CIDERE」を合わせた言葉。1948年に採択されたジェノサイド条約(集団殺害罪の防止および処罰に関する条約)、98年に採択された国際刑事裁判所 (ICC) 条約で国際法上の犯罪と規定されて

いる。国民的、民族的、種族的、宗教的集団の全部または一部を破壊する意図で構成員を殺害したり、重大な危害を加えたりすることなどと定義づけられた。政治的集団などへの虐殺も含むべきだと指摘が根強い。文化財の破壊や言語の使用禁止を念頭に「文化的ジェノサイド」を認めるよう求める意見もある。

田井中雅人
国末 憲人

ジェノサイド(集団殺害)や戦争で深い傷を負った社会の復興には何が求められるのか。各国の外交努力や国連機関の活動に任せられなかったデューマに学界や市民団体、メディアといった立場から取り組む動きが活発だ。3月に東京と大阪で開催された三つの国際シンポジウムから世界各地の取り組みと課題を採った。

集団殺害・戦争から復興へシンポ

傷癒やせ民も動く

顔写真・証言資料館に

グアテマラ、和解探る

グアテマラの内戦 60年以降、軍と左翼勢力の衝突を名目に、人口約1200万人の過半数を占めるマヤ系先住民の村を狙った「軍士作戦」を展開した。96年に政府と左翼ゲリラが和平協定に調印。36年間の紛争で国連の推計では全土で626の村が破壊され、死者・行方不明者は20万人以上。その8割以上が先住民だ。たと



05年5月、グアテマラ市の西130*の村で行われた遺体の発掘作業=A P

部のバンス村(人口約4千人)に開設された。78年5月、土地獲得闘争に集まった先住民族マヤの農民軍が暴発、35人を殺害したとされる。村有の建物の一角にパネルが展示され、犠牲者7人の経歴と生年が9人の証言が顔写真とともに並ぶ。運営は若い教師ら。地元住民12人が無報酬で、地元の子どもたちが教師らに引率されて訪れることが多い。モスコソさんは、軍が虐殺を隠すために遺体を捨てた「秘密墓地」を90年代初めから発掘。DN A鑑定で遺骨の身元を確

認し、遺族に返す活動を「悪い記憶は忘れた方がいい」という人たちが少なくない。軍が先住民を集めてつづらせた「自衛隊」が虐殺に手を染めたケースが多く、同じ村でも加害者と被害者に分かれば、事情は複雑だ。モスコソさんは「暴力で恐怖で沈黙させられた人たちが自由に語れる場所をつくり、その記憶をとどめるのが最初の一步だ。怒りを乗り越え、癒やされた人々の間で和解は成る」と語る。

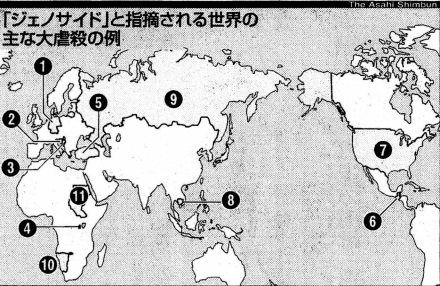
首都グアテマラ市に虐殺資料館を建設するのが夢。すでに数百人の顔写真と証言のデータベースを進め、全土で数万人に及ぶ行方不明者の捜索にも役立てる方針だ。

セルビア人、クロアチア人、モスラム人が三つどもえで殺し合い、「民族浄化」の言葉も生んだ旧ユーゴスラビアのボスニア・ヘルツェゴビナの戦で、いかに民族意識がつかられ、それが復興の妨げとなっているか。ブルガリアのソフィアにある少数派・異文化間関係研究国際センター国際係画部長のマルコ・ハイデ

「三つどもえの旧ユーゴ」「虐殺を正当化」民族意識が妨げ

イニャクさんが、東京大で18日開かれた「暴力／ジェノサイドの記憶—平和構築過程におけるその意味—」で現状報告した。旧ユーゴのクロアチア出身のハイディニャクさんは、旧ユーゴ分裂後、各民族が民族としての自覚を強めたと言う。セルビア人の場合、第2次世界大戦中クロアチアのファシスト集団「ウスタシャ」から受けた虐殺を思い起こす形で民族意識の形成が進み、クロアチアでは「オスマントルコの欧州侵略をクロアチアが防いだ」との神話が強調された。

ボスニア和平から10年余りたっても各民族は自らを犠牲者と思ひ込み、セルビアでミロシェビッチ元大統領の遺体が「愛国者」として迎えられるようなことになるのだという。ハイディニャクさんは「自らがどんな罪を犯したかを明らかにしない」と、歴史は繰り返されかねない」と訴える。



- 1 ホロコースト 第2次大戦中のナチスドイツによるユダヤ人大虐殺
- 2 「クロアチア独立国」の虐殺 第2次大戦中にクロアチアのファシスト組織「ウスタシャ」がセルビア人らを虐殺
- 3 旧ユーゴ民族浄化 92-95年のボスニア・ヘルツェゴビナ紛争などでセルビア人勢力がモスラム人らを虐殺
- 4 ルワンダ大虐殺 内戦中の94年に多数派フツ族民兵が少数派ツツ族を虐殺
- 5 アルメニア人大虐殺 第1次大戦中のオスマン帝国による大虐殺。トルコ側は認めていない
- 6 グアテマラ先住民虐殺 80年代前半に政府軍がマヤ系民族を虐殺
- 7 アメリカ先住民虐殺 米国の西部開拓者らによるインディアン虐殺
- 8 カンボジア大虐殺 70年代後半にポル・ポト政権が都市住民や知識人らを殺害
- 9 スターリン大虐殺 30年代の旧ソ連で富農や人勢力がモスラム人らを殺害
- 10 ナミビア先住民虐殺 1904-07年、旧独領西南アフリカで植民地支配に抵抗したヘレロ族を独軍が虐殺
- 11 スーダン虐殺 2004年にスーダン政府の支援を受けたアラブ系民兵組織が西部のダルフル住民を虐殺

「過激派は少数、明示」平和構築に向け提言

東京大で10日あった「人間の安全保障のための平和構築」(朝日新聞社後援)では、ジェノサイドや内戦を防ぐ試みの例として、米国が「対テロ戦争」を推進するなかで平和構築のあり方が議論された。文化間交流指導学校(ローマ)代表のゲザ・テッセンニさんは、欧米

ムの高揚を自らの政治的目的に利用しようとし、「自分がたかとも集団のリーダーであるかのように振る舞い、集団全体を乗っ取ってしまう」と説明。この問題を克服するためには「集団の中で過激派が少数者に過ぎないと明示する必要がある」と提言した。

対テロ戦争の戦場となつたアフガニスタンでは、兵士の社会復帰が復興の大きな課題になっていることが強調された。